



金屋町通信

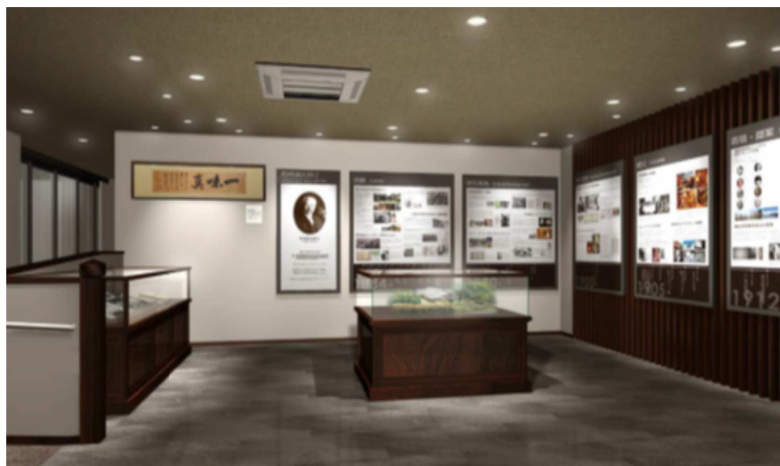
発行元：

金屋町まちづくり協議会

発行・編集 責任者：

般若慎一郎

高岡信用金庫は守山町の本店に隣接する別館を改築し、昨年12月1日に「たかしん高峰記念館」としてオープンした。高峰譲吉の生家跡とされる高峰公園に隣接し「高峰譲吉博士展示コーナー」を設置しているが、博士の業績を年表風にまとめたパネルや、直筆の書や手紙のコピー、元はセントルイス万博の日本パビリオンで博士が移築して別荘とした「松楓殿」の模型などが展示されています。



衆議院議員や高岡市長などを歴任し、高岡信用金庫の前身である高岡信用組合の初代組合長も務めた木津太郎平氏あての、病気見舞いへの返信手紙のコピーとその現代語訳も展示されています。

別館の中には地域住民に公民館代わりに使ってもらおうという「地域コミュニティールーム」も設置されており、企業として地域社会への貢献姿勢が素晴らしいと感じました。

かなや物語 金屋学講座

宗成子想図



50年代半ばから昭和60年代前半にかけて、この金屋町は大きく変化しました。鳳鳴橋のデザイン化、昭和通歩道のデザイン化、金屋町通りの無電柱化、路面を消雪装置付きの石畳化、ポケットパークや緑地公園の設置など、矢継ぎ早に整備事業が行なわれ、大きく生まれ変わりました。藤田さんは市役所の建設部門で仕事をされ、まさにこの金屋町を大きく変化させた事業を手がけられた方なので、私たちが知らない色々な事柄を聞かせていただけるだろうと思い、講演をお願いしたものです。

藤田さんのご先祖様は 金屋の鋳物師だった

藤田さんは瑞穂町にお住まいですが、実は先祖は名工と言われた金屋町の鋳物師だったそうで、菩提寺は西部金屋に近い速恩寺です。1975年ごろの新聞記事を見せてくれましたが、藤田勘右衛門というご先祖が弘化2年(1845)に製作した高さ4.8mの幻の鋳銅製大仏が武生市の天台宗月光寺で見つかったという記事です。高岡史料という文献に藤田勘右衛門が敦賀の大仏を

3月17日 公民館において、まちづくり協議会と公民館の共催で「かなや物語」と題して元高岡市建設部長で西条校下連合自治会長の藤田晴久さんを講師に招き、講演会を開催し約30人が参加しました。

今からおよそ30年から40年ほど前の昭和



月光寺大仏

作ったとあるの、博物館が敦賀市をくまなく探したが見つからなかった

ので幻になりました。実は敦賀市の某鋳物師の工場を拠点に製作したことが、敦賀市通史に書かれていたそうです。ロマンですね。

そもそも町なみ保存を言い出したのは？

そもそも町なみ保存の方向性を言い出したのは誰なのか？金沢工業大学の土屋教授が金屋町の伝統的家屋と町なみを調査し、歴史的価値を高く評価したことから住民も行政もその価値に気づき始め、とても時間はかかったが保存の方向へと動いて来たようです。

一連の金屋町まちづくり事業に当時のお金で8.5億円かけたそうですから、凄いことですね。

実はその頃に自治会では市内バスが通れるように金屋町通りを拡幅して欲しいという要望を市へ提出したそうです。ところが千石町から有磯神社横を通り、8番街から内免へ抜ける道路を都市計画道路として既に拡幅計画が決まっていたことから、この要望は却下されたそうです。今となれば却下で良かったですね。

さまのこハウスオープンセレモニー

5月12日14時に、県知事や市長を招いてオープンセレモニーを実施する予定です。詳しい日程などは後日改めてお知らせしますが、住民の皆さんはこぞって参加をお願いします。

金屋町防火セミナー

2月26日、金屋町公民館において「金屋町防火セミナー」が開催されました。これはとやまへりテージ協議会が文化庁の補助事業として、東京理科大学大学院教授の関澤愛氏を講師に招

いて開催してくれたものです。とやまへりテージ協議会会員と金屋町住民合わせて約40名が聴講しました。

金屋町の場合は毎年防災訓練をしており、たいがいの方は訓練用の水消火器を使った経験があるが、実際の粉末消火器は全然別物であり簡単ではないと認識せよと、先ず強調されました。粉末が火元を覆うようにかけるのがコツだが、訓練と違い、屋内で使うと部屋中が真っ白になり何も見えなくなってしまうことを認識しなくてははいけません。



スタンドパイプとホース



消火栓に差し込む



スタンドパイプとホースをつなぐ



放水開始

金屋町の場合は通報から5分後には消防車が来て放水開始できるので通常火災への対応は問題ないとしても、同時多発型の地震火災で消防車が来れない場合に備えて、自衛消防隊がスタンドパイプ（消火栓から取水する道具）を使える体制作りを薦めておられました。

2月の金屋町拡大会議

- ・連動型火災報知機の設置・費用への対応について。
- ・金屋町楽市に代わるイベントの検討委員会が、市・大学・金屋町で構成して発足するが、金屋町代表委員として自治会長が参加する。ちなみに実行委員長は金屋町でと求められている。
- ・その他